

## 0.1 H7 数学必修

<https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/259094/www.math.sci.kobe-u.ac.jp/HOME/nakanisi/mc/7m1.gif>

[1]  $A^2 = -I_n$  より  $(\det A)^2 = \det A^2 = \det(-I_n) = (-1)^n$  であるから,  $\det A \neq 0$ . 同様に  $\det B \neq 0$ .  $AB+BA = O_n$  より  $\det A \det B = \det(-BA) = (-1)^n \det B \det A$  ここで  $n$  が奇数ならば,  $\det A = 0 \vee \det B = 0$  となり矛盾する. よって  $n$  は偶数である.

$\text{Tr}(AB) = \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n a_{ij} b_{ji} = \sum_{j=1}^n \sum_{i=1}^n b_{ji} a_{ij} = \text{Tr}(BA)$  である.  $A$  は正則であるから,  $A^{-1}$  が存在して  $ABA^{-1} + B = O_n$ . よって  $\text{Tr}(ABA^{-1}) + \text{Tr}(B) = 2\text{Tr}(B) = 0$ . すなわち  $\text{Tr}(B) = 0$ . 同様にして  $\text{Tr}(A) = 0$ .

[2] (1)  $\sin x$  のマクローリン展開は  $\sin x = x - \frac{x^3}{3!} + \frac{x^5}{5!} - \dots$  である.  $-\cos x + 1 > 0$  ( $x > 0$ ) より  $[0, x]$  で積分して,  $-\sin x + x > 0$  ( $x > 0$ ). 同様に  $\cos x + \frac{x^2}{2!} - 1 > 0$  ( $x > 0$ ),  $\sin x - x + \frac{x^3}{3!} > 0$  ( $x > 0$ ). よって  $x - \sin x < \frac{x^3}{3!}$  ( $x > 0$ ) を得る.  $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n} - \sin \frac{1}{n} < \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^3} \frac{1}{3!}$  より収束級数.

$$(2) \Gamma(p)\Gamma(q) = \int_0^{\infty} e^{-x} x^{p-1} dx \int_0^{\infty} e^{-y} y^{q-1} dy = \int_0^{\infty} \int_0^{\infty} e^{-(x+y)} x^{p-1} y^{q-1} dx dy$$

$x = uv, y = u(1-v)$  とおくと, ヤコビアンは  $J = \begin{vmatrix} v & u \\ 1-v & -u \end{vmatrix} = -u$  である. また積分範囲は  $u = x+y, v = \frac{x}{x+y}$  より  $0 < u < \infty, 0 < v < 1$  である. よって

$$\begin{aligned} \Gamma(p)\Gamma(q) &= \int_0^{\infty} \int_0^1 e^{-u} u^{p-1} v^{p-1} u^{q-1} (1-v)^{q-1} | -u | du dv \\ &= \int_0^{\infty} e^{-u} u^{p+q-1} du \int_0^1 v^{p-1} (1-v)^{q-1} dv \\ &= \Gamma(p+q) B(p, q) \end{aligned}$$

[3] (1) 指数が 2 であるから  $H$  は正規部分群.

剰余類  $G/H$  は  $x \in G \setminus H$  を用いて,  $G/H = \{H, xH\}$  と表せる.  $g = xh' \in G \setminus H, h \in H$  に対して,  $ghg^{-1} = xh'hg^{-1} = h'' \in H$  より  $g^{-1} \in H$  となり矛盾. よって  $ghg^{-1} \in H$ .

$\mathbb{Z}/2\mathbb{Z} = \{1, -1\}$  を  $H$  に対して  $1 \cdot h = h, -1 \cdot h = h^{-1}$  とすれば, これは作用である.  $H$  の単位元以外の元は位数が 2 でないから, その軌道は二元集合である. 単位元の軌道は  $\{e\}$  である.

したがって軌道分解を考えれば  $H$  の位数は  $2n+1$  ( $n$  は  $e$  を含まない軌道の数) である. すなわち  $H$  の位数は奇数.

(2)  $aha^{-1}h = ahah = (ah)^2$  で  $ah \in G \setminus H$  より  $(ah)^2 = e$ . よって  $aha^{-1}h = e$ . どのように  $haha^{-1} = (ha)^2 = e$ . よって  $aha^{-1} = h^{-1}$ .

[4]  $F_k(x) = \max_{0 \leq i \leq k} f_i(x)$  とすると,  $F_{k+1}(x) = \max\{F_k(x), f_{k+1}(x)\}$  であるから,  $F_2$  が連続であることを示せば,  $F = F_r$  が連続であることは帰納的に示せる.

$F_2 = \frac{1}{2}(|f_1 - f_2| + f_1 + f_2)$  であるから,  $f_1, f_2$  が連続ならば  $F_2$  も連続.

よって  $F$  は連続である.

(2)  $f_n(x, y) = \begin{cases} x^{1/n} & (x \geq 0) \\ 0 & (x \leq 0) \end{cases}$  とすれば,  $f_n$  は連続である.  $G(x, y) = \sup_{n \in \mathbb{N}} f_n(x) = \begin{cases} 1 & (x > 0) \\ 0 & (x \leq 0) \end{cases}$  より  $G$  は

連続でない.